

第5図 望の日の雲量 (76年)

最後に月令別の平均雲量の76年間の統計値を示したものが第6図である。

第6図によれば明らかに22時の雲量は朔を含む月令22日より5日までは最小でその間の差はほとんどなく、望を含む月令8日から月令17日までの間が最大でその間の差はほとんどなく、月令5日から8日までと月令17日か

ら月令22日までの間にそれぞれの間の差が大きい。

一方22時においては朔を含む月令19日から月令6日までの間は月は出ていない。

したがって明らかに月が出ていない間は雲量が多くないこととなる。

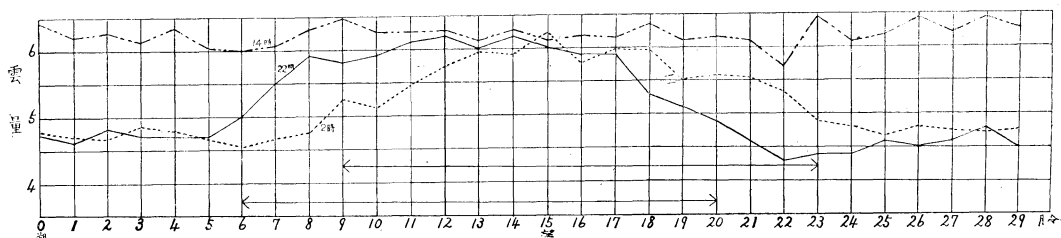
一方22時においては望の頃はまだ月がそう空高くは上がっていないから、明月面積は小さくとも月が冲天高く上っている月令12日前後と、望の中でも比較的月令が若い14日前後の雲量をもっとも多く観測されるのであろう。

すなわち気象学に記載してある夜間雲量の少ないのは、この無月期間中の過少雲量の経年値算入によるものと考えてよいと思う。

2時についても同様であるが、前に述べたような月出入時刻の変化により、その曲線は時の曲線とは若干ずれている。

結 論

夜間雲量はたしかに昼間雲量より若干少ないが、従来の一般気象学書に書かれているほどの大差があるものではなく、統計値がそうになっているのは夜間雲量観測は月明によってかなり左右され、夜が暗い時には雲量が過少に観測されるからであるためと思う。



第6図 各月令時の平均雲量 (76年)

付言：本調査に要した費用の一部は西部気象協会の研究補助費によった。一言付して同協会に謝意を表する。

参 考 文 献

- 1) 伊集院久吉, 1956: 満月と気温との関係について, 研究時報, 8. No 5 307~312.

生 気 候 学 に 関 す る 研 究 会 の お 知 ら せ

日本気象学会, 国際生気象学会日本支部, 環境生理集談会の共催で1962年度春季における生気候に関する研究会を順天堂大学で開催いたします。

今回は都合により時日が切迫しましたが, 下記の要領により振って一般研究発表にご応募下さい。

- 1. 一般研究発表 生気候学に関する研究 (午前)
- 2. シンポジウム 「気象と生体のリズム」について (午後)

- 3. 日 時 4月11日(水)午前9時~午後5時
- 4. 場 所 順天堂大学5号館講堂
文京区本郷1-1, お茶の水駅下車
- 5. 演 題 締 切 3月24日 (必ず到着するようお願いいたします)
- 6. 宛 先 東京都杉並区馬橋4-499
気象研究所

神 山 恵 三